

短期大学生への性教育の評価

岩木 宏子¹⁾, 酒井 孝子²⁾, 中尾理恵子³⁾, 吉谷須磨子³⁾

要 旨 この研究の目的は、性教育の効果を評価することにある。短期大学生の87に性教育をした。教育後の課題レポートを目標の論理分析をして評価項目と評価基準を作成して評価した。分析は、S-P表とクロス表を用いておこなった。その結果、S-P表ではドリル型を示し、教育効果が高かったことが明らかになった。また、クロス表の χ^2 検定では、リプロダクティブヘルスを知るに比べ、リプロダクティブヘルスに必要な行動の理解が有意に低いことが明らかになった。

長崎大医療技短大紀 13: 121-125, 1999

Key Words : 性教育, 教育効果, S-P表, リプロダクティブヘルス

はじめに

思春期の早発化傾向が見られ、性に関わる知識や避妊の知識がないまま性交へと走る傾向にある。大学生においては、それがさらに拡大される傾向にある。過去10年間の「母性衛生」誌の中で、女性の性行動を主要テーマにした国内の看護研究は、全論文数の1割に満たない。そうした状況下で、金田ら¹⁾の報告によると「大学生における性意識についての調査においては、未婚のSEXについてしてもいいと思うものが男女あわせて77%、どちらとも言えないが19.8%、してはいけないと思うものが3%だった。」と報告されている。こうした調査研究のほとんどが質問紙法による無記名調査である。それらは、意識と行動の傾向を知る量的研究であった。近年の傾向としては、20歳代未満の人工妊娠中絶率の増加傾向や、性感染の増加が母性保健の問題になっていることから保健指導の重要性が指摘されている。一方、性教育としての保健指導の評価は、学校・大学で行った性教育には、宮原ら²⁾の「イメージの可視化による性の学習支援」がある。二次元イメージ展開法を用いて、学習者の性のイメージを可視化し、自己を改めて認識する機会の提供の有効性を述べている。しかしながら、教育者側からの教育評価を客観的に調査した研究は少ない。そこで、本研究では、大学生に対してリプロダクティブヘルスを知ることとリプロダクティブヘルスの行動の育成の目的で講義を行ったのでその教育評価をした。教育評価の目的は、使用した教材の適切性・目標の達成度を調査すると同時に今後の性教育の課題を明らかにしようとした。

研究方法

対象

A女子短期大学の5つの専攻科の1年生305人に対し、

90分の講義を行い、その課題レポートを提出させた。5つの専攻科毎に講義をしたので学生数が一番多い1専攻科87名を対象にした。

研究の方法

教材は、生命の誕生、ピリングスメソッドとしての性周期、経口避妊薬・ピル等をVTRや資料にしたものであった。講義はクラス毎の一斉授業とした。

講義後、1週間で課題レポートを提出させた。それを評価するため目標分析としての階層構造を作り評価項目を導きだした。評定は、できた、できなかったの2段階評価にして評価値とした。導きだされた評価値は教育の成果を見るためにグラフ理論のS-P表にした。さらに評価項目ごとの達成度を確認するためにクロス集計して、差の検定をした。そのことによって、この教育でどの部分の教育効果が達成でき、どの部分が今後の課題かについて明らかにできるとした。

評価項目の概要と調査手順

本研究では、課題レポートの評価をできるだけ客観化するため、課題レポートに対する評価を行うにあたって教育目標の概念分析をした。手順は、リプロダクティブヘルスを知ることとリプロダクティブヘルス行動の理解としての目標を階層構造にして評価項目(図1)を決めた。教育目標としては1. リプロダクティブヘルスを知る。2. リプロダクティブヘルスの行動がとれるとした。それらを具体的にするため下位概念に下ろし、10の項目として関連させた。そして、評価規則(表1)を決め、項目に従って、評価概念の記載があるものを1として、ないものを0とした。具体的には、目標1は、教育自体への全体的な関心として、「教材の記述」、「教材への興

1 長崎大学医療技術短期大学部専攻科

2 長崎純心短期大学

3 長崎大学医療技術短期大学部看護学科

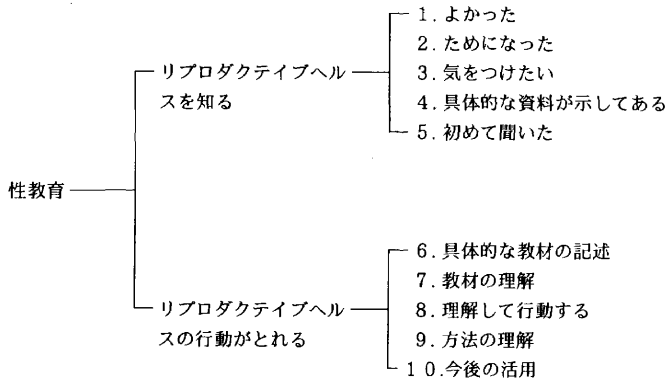


図 1. 評価項目

表 1. 評価規則

目 標	評価 1	評価 0
1. リプロダクティブヘルスを理解する	よかった ためになった 気をつけたい 具体的な資料が示してある 初めて聞いた	記載なし 記載なし 記載なし 記載なし 記載なし
2. リプロダクティブヘルスの行動がとれる	具体的な教材の記述 教材の理解 理解して行動する 方法の理解 今後の活用	記載なし 記載なし 記載なし 記載なし 記載なし

味、関心」を示す「気づき、感動」を含むものとした。2の目標は、「方法の理解」、「今後の活用」といった認知領域と「自己管理の意識」の精神運動領域を含むリプロダクティブヘルスの技能への関心に分けて評価した。

作成した評価項目の意味

性教育の評価に対する10の項目は、互いに関連が深い。しかし、各項目の評価値は、教育後の学生の興味・関心とリプロダクティブヘルスの行動が見られるものを1点とし、教育目標に沿ったものとした。また、使用した教材の興味・関心の視点で、教育内容の理解とその行動が評価でき、今後の教育の課題を見出す方向ができた。

集計方法は、10項目を「関心・興味・気づき」と、「教材の提示と理解」、「行動・活用」の3群に分け、それぞれを高得点者(3点)、中得点者(2点)、低得点(0~1点)に分類した(表2)。また、合計得点の8~10点の者を上位者、合計得点5~7点の者を中得点者、0~4点の者を低得点者とし、「関心・興味・気づき」と、「教材の提示と理解」、「行動・活用」について分類した(表3)。

結 果

1. 性教育の教育効果

性教育が効果的であったか否かを見るために、今回の教育効果の測定結果にS-P表を使いそれを可視的なグラフで表現した(図2)。この結果をP曲線から見ると

正答率75%で、 $p=0.7$ の曲線を描いている。このことは、教材に対して教育目標のリプロダクティブヘルスを知るにあたる評価には、高い得点が取れていることを示す。目標2のリプロダクティブヘルスの行動の評価値は、バラツキが見られることを示している。それは、正答率の低い項目が右に寄り、P曲線のグラフの型も右端に寄っている。このことから、目標2の学習内容としての「理解して行動」「今後の活用」「方法の理解」の正答率が低いことがわかる。さらに、10の評価項目に対する学生の得点の分布を見るために、S曲線を見た。このS曲線でクラス内の理解力を判断することができる。目標1・2ともほとんどが理解していない学生が0.7%いた。その他の学生の80%以上は、教育内容の理解ができていることをP曲線・S曲線がグラフが右下寄りであることによって示されている。

次に、S、P曲線の関係から教育した内容がこの標本としたクラスに適切であったかどうかについて見た。グラフ理論では、S、P両曲線に囲まれた部分を面積の基準化した値で見ることになっている³⁾。今回の教育効果の測定はS曲線、P曲線の両曲線の差異係数で見れば、小さいことを示している。また、評価項目に対しての達成度が2分化していることを表している。これは、クラスの達成度の差異が少ないということである。今回の教育効果の測定は、10の教科項目の7つは高い正答率であり、ドリル型であった。難易度の高い学習内容には、誤答が多かった。しかし、クラス全体の教育効果は、リプロダクティブヘルスを知るについては達成度は高いといえる。

2. 性教育の教材に対する評価

10の評価項目に対して、どの項目に教育効果の差があるかどうかを見るために①リプロダクティブヘルスへの興味、関心、②教材の提示と理解、③リプロダクティブヘルスの行動と活用の3つに分類して達成度を調査した。表2は、縦に評価項目、横に取得得点ごとに上位・中位・下位にしたクロス表にした。それぞれの欄に示された数字の人数は総数で、87人である。たとえば、1群の「教材の興味・関心」は、69人で高い達成を示している。以下同様にして、1・2・3群の項目ごとの結果を示した。教材の内容についての理解が高い上位群の成績の「興味・関心」「教材の提示と理解」は、約80~93%の達成率がみられた。また、「リプロダクティブヘルスの行動」に対しては、20.7%と低かった。しかし、上位群の学生には、関心、興味については、53名中51名(96.2%)でありおおむね学習効果があったと言える。目標2については上位群では53名中31名(58.5%)で理解が十分とはいえなかった(表3)。一方、下位群はすべての項目の回答については、理解が低かった。しかし、「リプロダクティブヘルスの行動と活用」の理解は、著しく理解が低くなっていた。そこで、各群間の理解に差があるかどうかについて χ^2 検定をした。5%有意水準で見たところ $9.49 < 11.41$ で差が認められた。

表2. 得点率 人(%)

	高得点	中得点	低得点
関心 興味 気づき	69 (79.3)	14 (16.1)	4 (4.6)
教材の提 示と理解	81 (93.1)	2 (2.3)	4 (4.6)
行 動 活 用	18 (20.7)	22 (25.3)	47 (54.0)
合 計	168 (64.4)	38 (14.6)	55 (21.1)

表3. 上位者・中位者・下位者の項目毎の達成度 人(%)

	上位(53名)	中位(29名)	下位(5名)
関心 興味 気づき	51 (96.2)	24 (82.8)	0
教材の提 示と理解	53 (100)	28 (96.6)	1 (20.0)
行 動 活 用	31 (58.5)	2 (6.9)	0

考 察

性教育の教育効果についてS-P表と成績のクロス集計によって分析した。S-P表では教育の内容の難易性が2分化された。つまり、目標1に対しては、P曲線が75%の達成率を示し、 $p=0.7$ の曲線を描いていた。このことから、「リプロダクティブヘルスについて知る」は高いということが示された。また、クロス集計で見ても同様な傾向として約80%が達成している。しかし、目標2の「教材の理解」についてS-P表を見る時は、S曲線とP曲線の交わっている箇所を理解している学生そうでない学生を見てみた。61%が理解していたことが示されていた。しかし、「リプロダクティブヘルスの行動」としての理解は、約28%の学生のみであり、さらに、「リプロダクティブヘルスの方法の理解」になると約20%ともっと低くなっていた。これは、クロス集計でも同じような傾向を示していた。90分の講義としては、効果的であったといえるだろう。しかし、青年期の性の解放が進み、性交の低年齢化が見られる今日では、目標2も重要視しなければならない。宮原ら²⁾の研究でも、コンドーム使用については、意識と行動にギャップがみられ、健康管理や避妊目的の基礎体温についても、知識としては知っていても実際には測定あるいは活用できないことが多いことが指摘されている。また、小山田ら⁴⁾の研究でも、月経周期から排卵日を正しく理解して算出してきたものではなく、妊娠成立時期についても同様であった。これらの報告より、望まぬ妊娠やSTDから身を守るリプロダクティブヘルスの行動や方法の理解につい

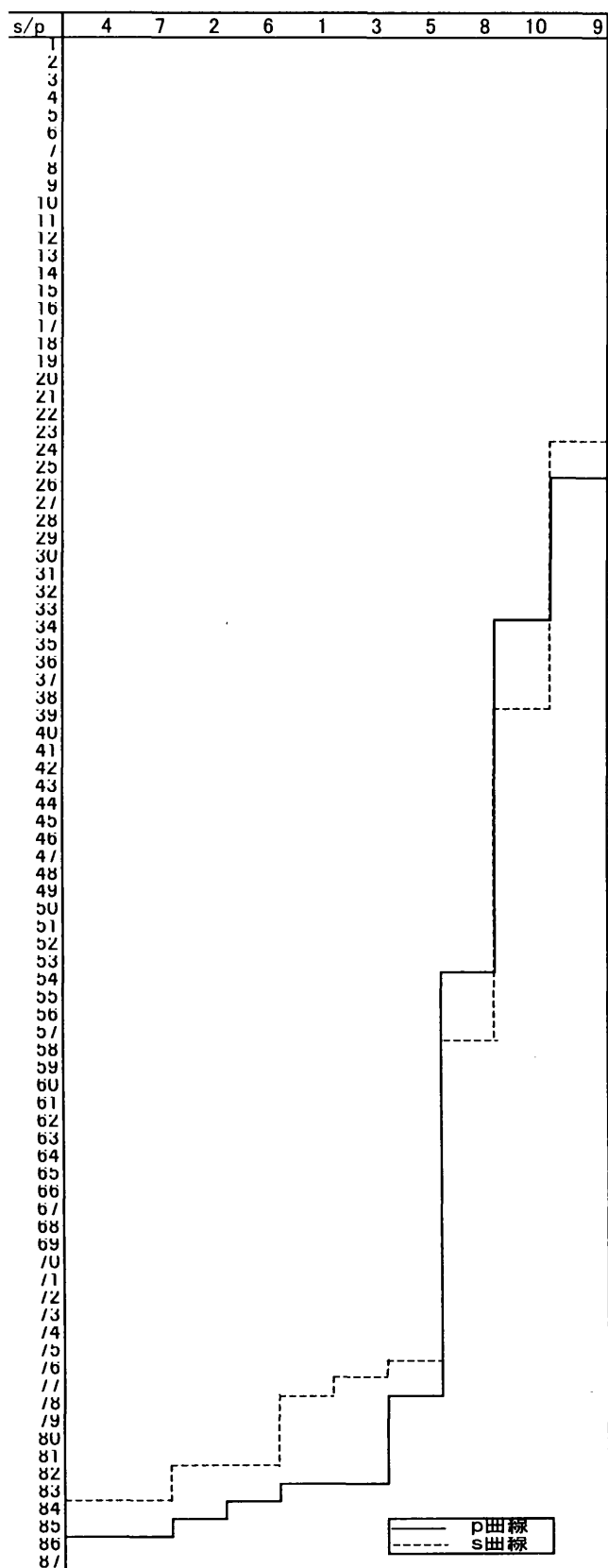


図2. s-p表による性教育の評価

ては、継続教育や教育方法のさらなる検討が必要と思われる。

以上のことから、性教育については、内容が多岐のため1回の講義のみでは、不十分であることが示唆された。とくに「生き方、自己愛」が問われる精神運動領域の理解は、さらに多くの時間と内容が必要であることが伺えた。本研究の成果は、青年期の時期に適切な性教育の教育を施すことの重要性を指摘したものと考える。特に、性教育の教育評価の研究報告は少ない現状にある。そうしたなかでリプロダクティブヘルスについての意識を持ち行動がとれるまでの教育が必要だと提言できると考える。今後の講義では少なくとも「健康管理」のなかで「性の健康」を数回もつ必要がある。今後は、講義の回数だけでなく、女性の生き方としての精神運動領域の理解を高める講義のありかたについても検討していく必要があると考えている。

文 献

1. 久米美代子, 常磐洋子: 母性教育の観点から大学生の性意識に関する調査 (その1), 母性衛生, 34(4):445-453, 1993.
2. 宮原春美, 安日泰子, 久保田健二, 守山正樹: イメージの可視化による性の学習の支援, 思春期学, 15(3):324-329, 1997.
3. 佐藤隆博: S-P表の作成と解釈, 明治図書, 1975.
4. 小山田浩子, 今中基晴: 学生にとっての性教育, 思春期学, 17(1):78-79, 1999.

The Evaluation of Education on Sexuality to Junior College Students

Hiroko Iwaki¹⁾, Takako Sakai²⁾, Rieko Nakao³⁾, Sumako Yoshitani³⁾

- 1 The School of Allied Medical Sciences Nagasaki University, Advanced Course
- 2 Nagasaki Junshin Junior College
- 3 The School of Allied Medical Sciences Nagasaki University, Nursing Course

Abstract The purpose of this study is to evaluate the effect of the education on sexuality. The assignment reports after the sexuality education of 87 junior college students were evaluated using the appraisal item and the appraisal standard. The assignment were analyzed by S-Pscore table and cross table. The pattern of them was drill pattern which shows highly effective lecture by S-P score table, and the cross table made clear the understanding of the reproductive health behavior is significant lower in comparison with the knowing reproductive health.

Bull. Sch. Allied Med. Sci., Nagasaki Univ. 13: 121-125, 1999

Key words : education on sexuality, effect of education, S-P score table, reproductive health